

さくらんぼ通信

令和6年1月4日(木)発行
 さくらんぼ保育園 園だより
 桜が丘東2-2-809
 Tel 995-9071
 Fax 995-9072

さくらんぼ保育園 園だより No.276

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

先月行われた保育園公開では、日頃のクラスの様子が見ていただけたのではないかと思います。5月の親子参観日の時よりも落ち着いて過ごし、保護者の方に見られることを喜んでくれているこどもたちの姿に、大きな成長を感じました。こどもたちが保護者の方に見られながらも安心して過ごせたのは、日々の生活の中で、保護者の方からこどもへ愛情や優しさといった人間の温かさが注がれ『自分の存在』が認められているからだと感じます。それを土台に、園でも安心してくつろぎ、いっぱい遊び、いっぱい食べて、ぐっすり眠る『大きな家』を意識し、ほっとできる空間、人の温かさや人間関係が、こどもたちの安心に繋がるように過ごしています。こどもたちの生活は24時間。そのこどもたちにかかわる保護者と私たち職員が、こどもを真ん中に手を繋ぎ、一体となって協力しあうことでこどもの心身ともに健やかな成長が実現できると考えます。

今年度も残り3か月となりました。こどもたちの“今”を大切にしながら、楽しく過ごしていきたいと思ひます。

原谷 鎮世

今月のBEST SHOT



1月 行事予定

- 11日(木) もちつき
- 12日(金) 誕生会
- 17日(水) お話会
- 18日(木) 劇団『風の子』
- 26日(金) 避難訓練
- 30日(火) 保育園公開(つき・ほし・そら組)

2月 行事予定

- 2日(金) 誕生会
- 14日(水) お話会
- 15日(木) 避難訓練

リズムであそぼう♪

『あひる』…股をしっかりと開いてしゃがみ、上体は起こしたまま両脇は力を抜き自然に横に下ろして、腰でバランスをとりながら歩いていきます。土踏ましが形成されてくると、踵をあげて前進することができるようになります。

ひざを曲げての前進は大人でも結構きついです

大きなクラスになると、腹筋にも力がつき、背筋もピンと伸びてきます

にじ組



園公開でクリスマスツリーの飾りつけをしました。折り紙のサンタクロースを貼る位置や、シールのデコレーションに個性がでています。今回はカラーシールだけではなく、ラメや光沢のシールを取り入れてみました。それらのシールで飾られた完成品に A さんが「電気を消してみよう、光るかも！」と言。電気を消してみるとなんと日光が反射し光っていました。この時期の光るクリスマスツリーを見たからか、光るシールを見て思いついたのかは分かりませんが、こどもの発想を大切に“やってみよう”とこどもたちと試してみることを日々の保育で大切にしています。

はな組 ゆき組

寝転んでいる友だちに近寄り、A さんがふれあいあそびのフレーズを歌い始めました。保育者がその様子を見てみると、手をたたき保育者に何かをアピール。ふれあいあそびをしたいのかと思い、身体に触れると“違う”と首を横に振り、身体を揺らしながらふれあいあそびのうたを歌っていました。保育者が歌い始めると、A さんは B さんの前に寝転んで“交代”というようにしてもらい側になり、嬉しそうなお表情でした。友だちとふれあいあそびをしたかったようです。

自分のしてほしいことを言葉やジェスチャーで一生懸命伝えようとしているこどもたちのサインを見逃さず「こう思っているのかな?」「これをしてほしいのかな?」と考え、関わる面白さを日々感じています。



つき組



観守り保育の中で見えてくる こどもの姿と保育者の関わり

「観」という漢字には物事を見て意味や本質を捉える。考えるという意味があります。こどもたちの姿や行動から、こどもたちの思いや言葉の裏にある気持ちや考えを実現させるためにはどう関わり、何がよいのかを考えていけるように“観守り保育”を大切に、実践しています。

光ら組



ほし組



クッキングの際、エプロンと三角巾を身につけます。二回目ということもあり「こうだったっけ?」と確認しに来るこどもたちですが「ちょっと鏡を見てみる?」と促しました。鏡の前に立つと「あれ?」と自分が思っていたのとは違った身なりだったことに気づき、自分で直し始めました。前後裏表といろいろ試し、ピタッと思い通りに当てはまった容姿に「できた」ととても嬉しそうです。

生活でもあそびでも、一つひとつの“自分でできた”経験を増やしていきたいと思います。

折り紙をしました。夏頃までは少人数単位で説明し折っていたのですが、くり返し取り組んでいく中で指先も器用になり、自分で説明を理解して折ることができるようになってきたので、全員で同時に折り進めてみました。時々「分からない」「先生折って」という声も聞かれます。そんな時「他にも折り紙先生いないかな」と促してみると「OOくん手伝って」「教えてあげようか?」と声をかけ合う姿が見られました。難しいことでもどうやったら解決できるかこどもたちの中で考えることができた場面だなと感じました。すぐに大人が手を貸すのではなく、どうやったらできるか、自分たちで解決できるかどうか考える姿を大切にしたいです。

帽子取り鬼の人数分けからこどもたちで始めました。最初は2人 VS 6人で行ったのですが2人のグループはすぐに帽子を取られて終わります。「どうしてすぐ取られてしまったんだろう?」と保育者と一緒に考えると「A さんは足が速いけど2人のグループだったから、人数が少なくて負けたのかな?」という意見が。「なるほど。じゃあ、人数を変えてみる?」という話をし、4人 VS 4人で再挑戦。次はとて面白い勝負となり、楽しんでいました。タッチされたらどうするのか、人数分けはどうするのか、鬼はどうするのかなど、最初は保育者と一緒に考えていましたが、少しずつ自分たちで考えて話し合う姿が増えています。